

# “リスクコミュニケーション”って何？

私たちは、様々な化学物質に取り囲まれて暮らしています。P R T R法で指定されている“環境や身体に負荷を与える物質”として、家庭から多く排出している代表的なものは、合成洗剤と衣料用防虫剤や殺虫剤に含まれています。

製品を製造する段階でも、多くの化学物質が使用されていますが、埼玉県でもっとも多く排出されているのが、トルエンです。これは、主にガソリンの成分やペンキや印刷用のインクに溶剤として多く含まれています。

化学物質による環境リスクを低減する取り組みを促進するために、事業所と行政と市民が、共に話し合う場を持つことが、とても大切になっています。

リスクコミュニケーションは、通常、事業者が主体となり実施するようですが、市民が事業者に呼びかけて開催することも可能です。



## 白岡工業団地にある ㈱佐伯紙工所へ



2007年12月20日午後、白岡町の『もったいない会』の遠藤誠さんに誘われ、リスクコミュニケーションを初体験、近所にある工場が、どのような化学物質を運び込み、どのように取扱い、管理・保管しているかを確認してきました。

出席者は、事業者として佐伯紙工所白岡工場のISO管理室長の菅野氏。行政は、埼玉県環境部青空再生課2名、東部環境管理事務所大気水質担当2名、白岡町生活環境課3名。市民は、もったいない会4名、白岡地域住民2名、蓮田市1名、久喜市2名でした。

### 埼玉県で排出されている化学物質の概要説明

まず、青空再生課から埼玉県における化学物質の排出状況について説明があり、埼玉県は、出版・印刷業が多く、トルエンの排出量は、静岡県に続き、全国2位（平成17年度）。ほとんどが、大気に放出されているとのこと。

東部環境管理事務所管轄内市町村では、P R T R法指定物質の合計排出量の多いのは、蓮田市（埼玉県内7位）、以下行田市（8位）、幸手市（10位）、白岡町（11位）、菖蒲町（14位）と続く。

企業別では、蓮田市の化学工業（埼玉県内6位）、幸手市の出版印刷関連産業（8位）など、日常意識しなかった排出量の多い工場が自宅近くに存在することにびっくり。

## 工場からの化学物質排出状況の説明

次に、佐伯紙工所の ISO 管理室長から、会社概要の説明があった。

主な製品として、ラミネート加工、プラスチックフィルム、アルミ箔、紙等の薄いフィルム状のロール素材を貼りあわせた複合包装資材を生産。

環境対策として、NEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）の補助を受けて、蓄熱式溶剤排ガス燃焼装置などを整備し、空气中に放出する有機化合物を大幅に削減したとのこと。

導入当初は、ライン変更ごとにトルエンの量を測定、毎日エネルギーのメーターもチェックし、CO<sub>2</sub>削減量を測定した。結果は、揮発性有機化合物（VOC）の約 82%を回転蓄熱式VOC処理装置で燃焼させ、従来大気放散していたVOCを 20%以下に、燃料ガスを熱量費 50%弱削減できた。



工場の門にある危険物の表示



蓄熱式溶剤排ガス燃焼装置

ガス漏れを検査する穴



## 見学後の意見交換

地域住民：どのような安全対策がなされているか知りたい。

工場：危険物取扱い主任者が 5 名おり、3 年ごとに研修を受けている。実際の火災を想定して、消火班は、粉でなく水で消火・防災訓練をおこなっている。

## 工場内の様子をみんなで確認

そして、いよいよ、工場見学。

製品は、工場内のクリーンルームの中でラミネート加工されているのを外から見学した。

トルエンが、グラビアコート前後から各乾燥オープン間での溶剤蒸発により発生するため、設置以前は、廃棄ダクトを介し、全量大量放出していたが、現在は、トルエンを上部のパイプで回収し、隣接する工場脇に設置の蓄熱式溶剤排ガス燃焼装置へ送り、燃焼時の熱をクリーンルーム内の乾燥工程に再利用している。工場内は、全く溶剤のにおいはしなかった。

蓄熱式溶剤排ガス燃焼装置は、とても大きなもので、設置するときは、了解を得て隣接工場の駐車場から設置工事をおこなったとのこと。

工場脇には、タンク車から地下にトルエンとサクエチレンを保管する蓋があった。

報告者：埼玉エコ・リサイクル連絡会  
理事 大前万寿美